

# 輝ける IT 立国に向けて

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 会長  
株式会社豆蔵ホールディングス 代表取締役社長

荻原 紀男



昨今、クラウドやスマートデバイスの本格的普及、IoT (モノのインターネット) の進展、ビッグデータ・オープンデータの活用拡大、スマートシティの実現など、IT の活躍する分野はますます拡大しております。

そのような時代の潮流の中、新会長として三つの大きな目標を立てました。

まず、情報発信基地としての役割を担うために、シンクタンク化を目指します。新しい技術、新しい情報をいち早く会員に届け、次のビジネス展開のための種としていただきたく思います。

次に IT 製品・サービスの輸出を拡大し、グローバル化を推進します。我が国は IT 製品について圧倒的な輸入超過の状態が続いております。日本のソフトウェアを輸出するためにはまず人、物、金の国際化を推進し、環境づくりをしていかなければなりません。単に英語化するだけではなく、切磋琢磨して海外の環境に適応したソフトウェアを作らなければならないと思います。

最後にビジネスチャンスの拡大です。首都圏と地方の情報格差をなくし、地方でも先進的な開発が可能な環境を構築していきたいと思います。それにより首都圏と地方の技術格差・情報格差が解消され、地方でも起業が容易になり、また企業の地方移転も含めた地方創生の足がかりとなりたいと思います。

更にこれらとは別に、次代を担うエンジニアを発掘するために、昨年から経済産業省に代わり当協会が事務局となって「U-22 プログラミング・コンテスト」を始めました。小学生から大学生まで幅広く募集した結果、ユニークなアプリや創造性の高いゲーム、そしてかなり高いレベルのシステムまで、称賛に値する作品が数多くあつまり、日本の輝ける未来を確信いたしました。

またそれに付加して優秀な人材をどんどん輩出して日本を IT 立国にするためにアクセラレーターを創設し、その力で多くのベンチャー企業を、資金面だけではなく経

営面からも有意義な支援をしていきたいと思います。

次に、来る 2020 年の東京五輪開催に向けて最重要課題であるサイバーセキュリティです。IT は全ての重要インフラにとって必要不可欠な存在であり、サイバー攻撃によって五輪会場はおろか首都圏の機能がマヒする危険性を秘めております。東京五輪ではサイバー攻撃に対処するために最大 8 万人のセキュリティエンジニアが必要とされており、一刻も早く人材育成とその組織化に着手する必要があります。当協会はセキュリティ委員会を設置し、IPA セキュリティセンターなどのセキュリティ関連組織と協力しつつ、官民を挙げてのサイバーディフェンスリーグ構築のため、積極的に活動していきたいと思います。

また、情報システムの安全性・信頼性を高めるためにはソフトウェアの品質を向上させる必要があります。当協会は、ISO/IEC25051 に基づくパッケージソフトの品質認証制度「PSQ 認証制度」を通じて、ソフトウェアの品質向上に貢献していきます。

最後に IT 教育です。IT 先進国になるためには早くから授業に IT 教育をとり入れて IT リテラシーを向上させる必要があります。子供たちの IT リテラシーが向上すれば現場の教師、親にも良い影響を与えます。簡単なプログラミングを含めた IT 教育を推進していくことは将来の国づくりにとても重要です。日本には既に一線を退かれた優秀なエンジニアの方が沢山いらっしゃいます。そのような方たちに教師をサポートする立場から支援頂ければ現場もスムーズに動くと思います。また、子供たちに幼いころから IT の正しい利用方法を教えることで、逆にサイバーテロを起こさない、しっかりとした道徳観を植え付ける事になると思います。

当協会は、日本のソフトウェア産業の更なる発展と日本経済の成長のために、時代に即した役割を担っていききたいと思います。